

Agile Japan

アジャイル開発におけるテストのこれからを考える ～開発プロセスにあわせたテストの変革～

Nov 17, 2020

今年テーマは、
株式会社LIFULL 中野直樹

“変わる勇気・変えない勇気”

本セッションについてのお願い

 **撮影** NG

 **録音** NG

 **SNS** OK



中野直樹

株式会社 LIFULL

テクノロジー本部 品質戦略部

品質改善推進ユニット

エンタープライズシステムの開発者、プロジェクトマネージャーなどを経験後、テスト技術者へ転向。 ネット証券のシステム開発部門のテストチームのリーダーを経験後、現在のLIFULLでソフトウェアテスト技術の展開など品質改善の仕組み作りに従事。

共著「ソフトウェアテスト教科書 JSTQB Foundation 第4版」NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER)理事/JSTQB技術委員/JaSST Tokyo 実行委員など。



はじめに

本日のテーマ

アジャイル全盛の時代に
ソフトウェアテストが
どう変化するべきかを考える

Agenda

はじめに

チームカルチャー

テスト技術

開発サイクルとテスト

まとめ



チームカルチャー

前職の話

私はガチガチの
ウォーターフォールで
開発することが多かった

開発チーム

VS

テストチーム

チームは機能しているように見えたがそれが最適だったかは誰にも分からない

開発（機能実装）チーム



彼らは、給料分は働こうとする気持ちや、顧客の要求に対して努力する真面目さを持っていた。

しかし、バグ修正が残業の原因になっていることが明らかで、テストチームからのフィードバックを聞くと、品質向上のきっかけをもらったというよりも悪いクジが当たったような表情を見せた。

テストチーム



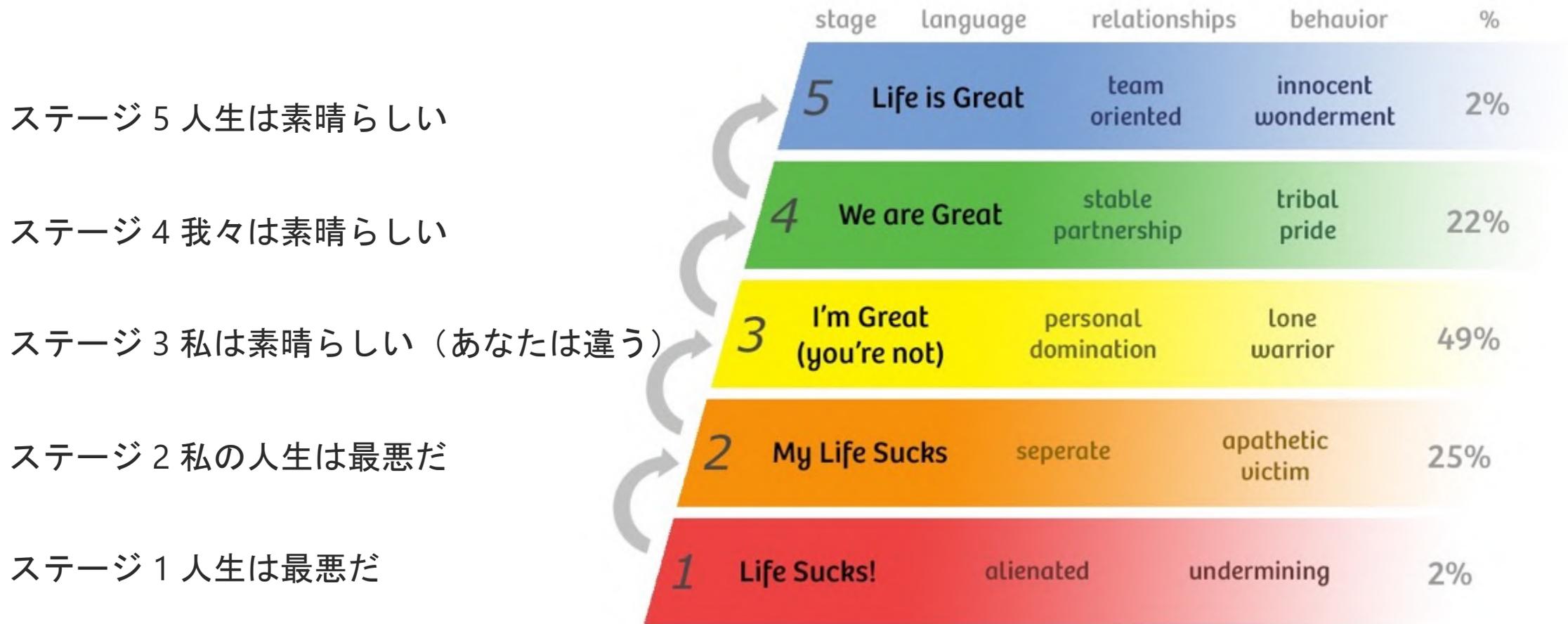
彼らはとても真面目で、自分たちが水際でバグを発見できなければ、プロダクトの信頼が失墜し、開発組織のすべての努力が無になるような価値観を持っていた。その上でバグを根絶する行動であるテストは正義そのものだと考えていた。



ハイパフォーマンスな組織は
どんな文化を持っているべきか



チームがどのステージまでのばれば 我々は変わることができるか



本当の意味で自分たちが
一緒に解決すべきことを
考えたり、自分事に落とし
込める組織や文化が不可欠

Agenda

はじめに

チームカルチャー

テスト技術

開発サイクルとテスト

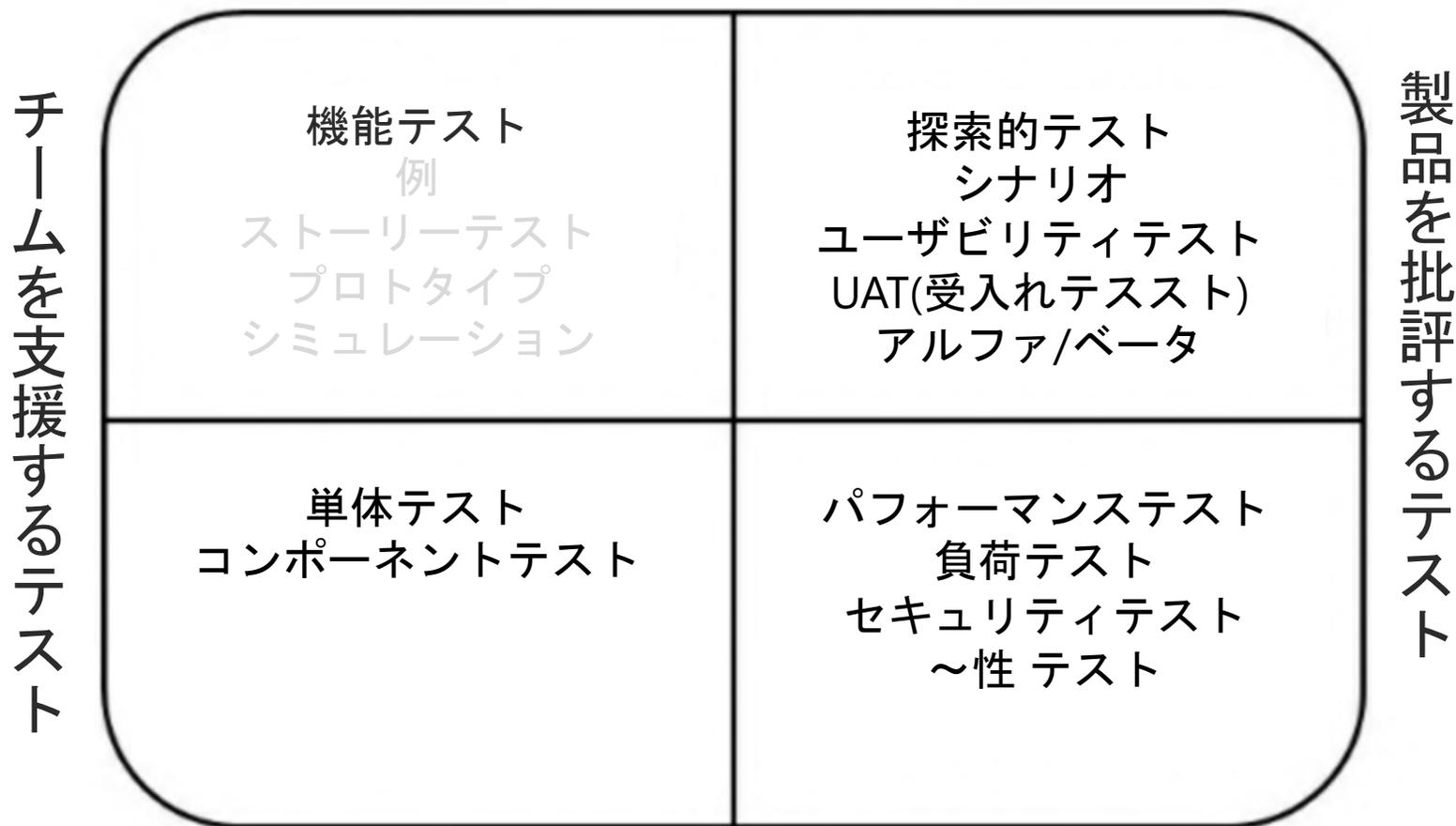
まとめ

The background image shows a modern, industrial-style interior. On the left, a woman in a light blue shirt and jeans is standing near a white table with stools, possibly preparing food or drinks. In the center, there is a desk with a red metal frame, a black chair, and a desk lamp. A large potted plant is in the foreground. The wall behind the desk has graffiti that reads "PUNCH TODAY IN THE FACE".

テスト技術

アジャイルテストの4象限

ビジネス面



技術面

アジャイルテストの4象限

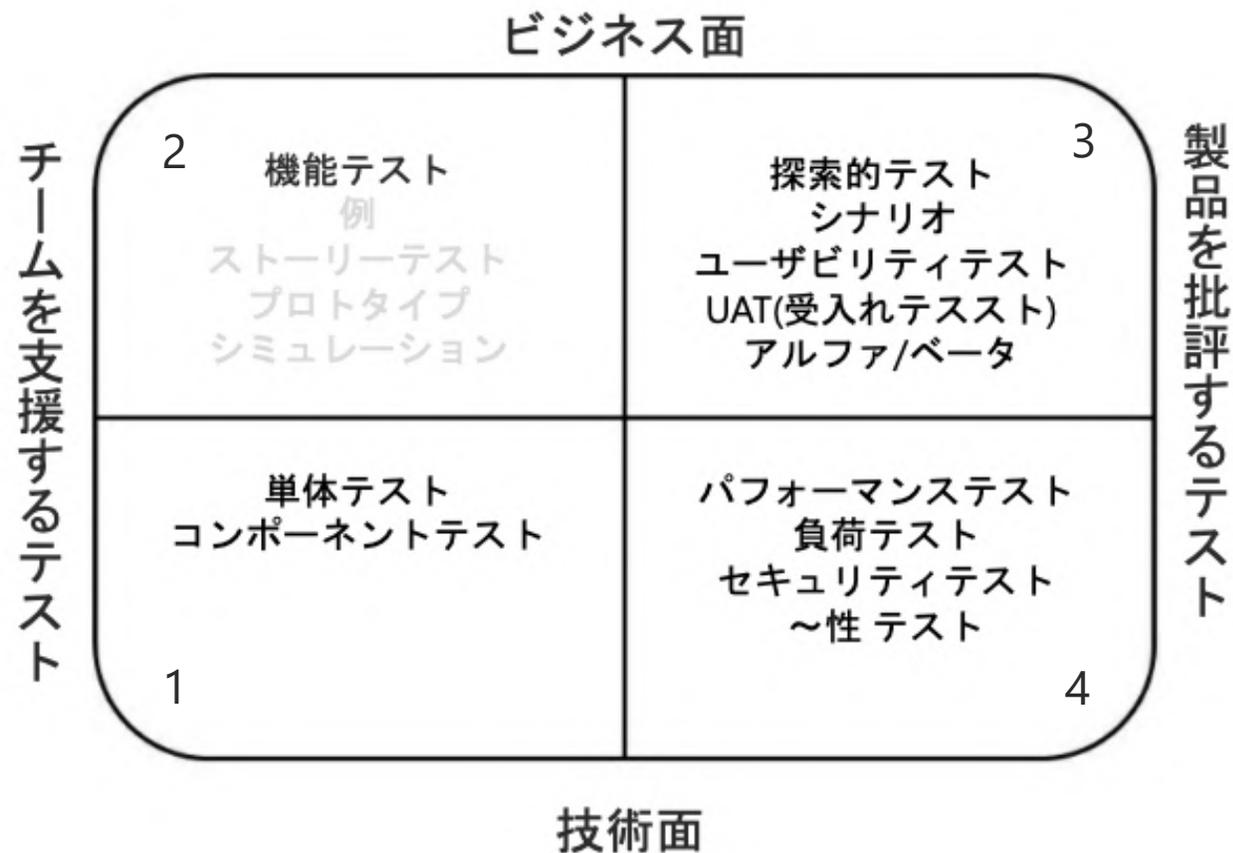
各象限のテストの概要

第1象限はチームを支援する技術面のテスト
テスト駆動開発などアジャイル開発の中心

第2象限はチームを支援するビジネス面のテスト
顧客の視点からのハイレベルの機能テストなど

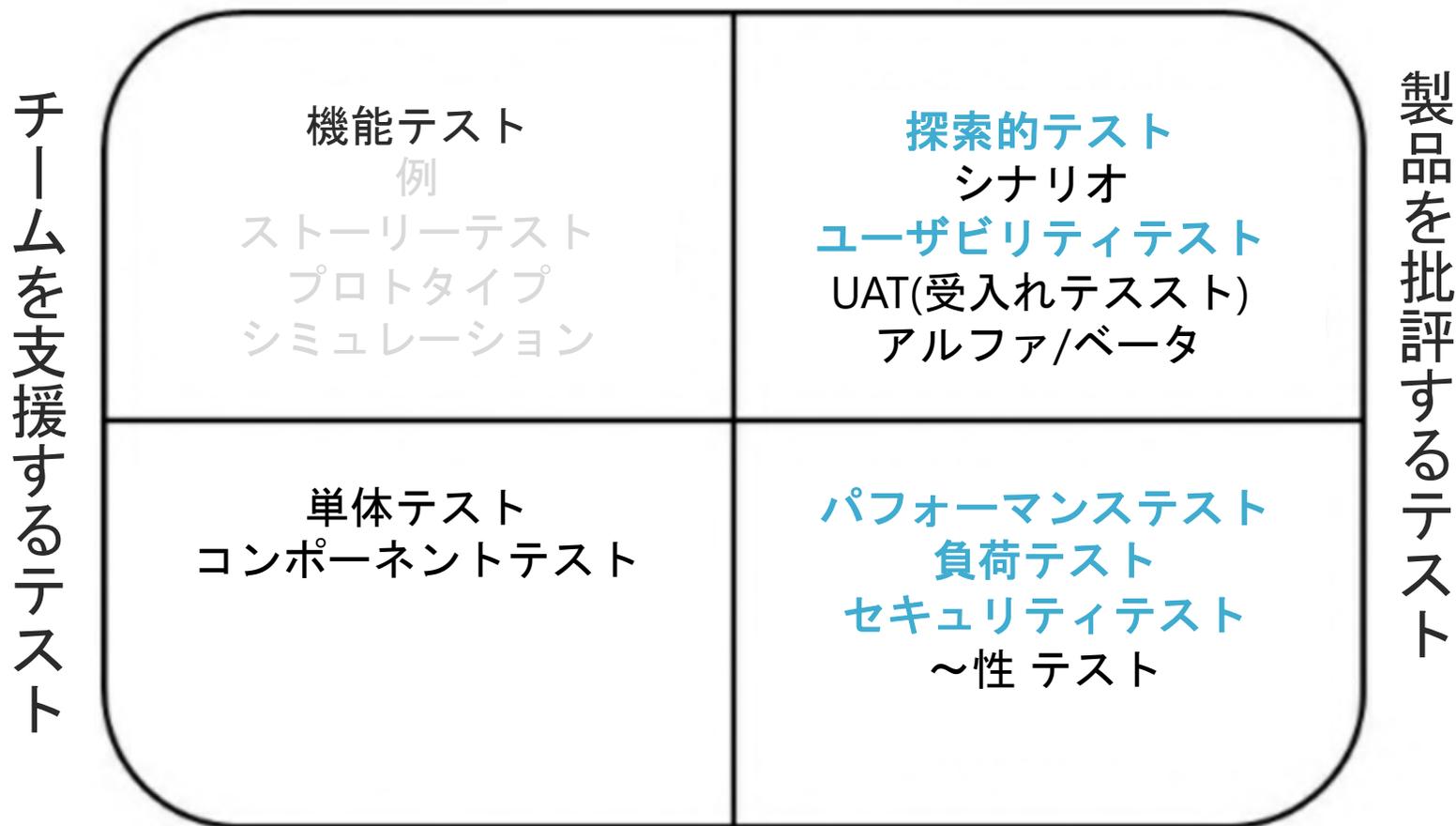
第3象限は製品を批評するビジネス面のテスト
探索的テスト、ユーザー受入テストなど

第4象限は技術面のテストを使った製品の批評
パフォーマンステスト、セキュリティテストなど



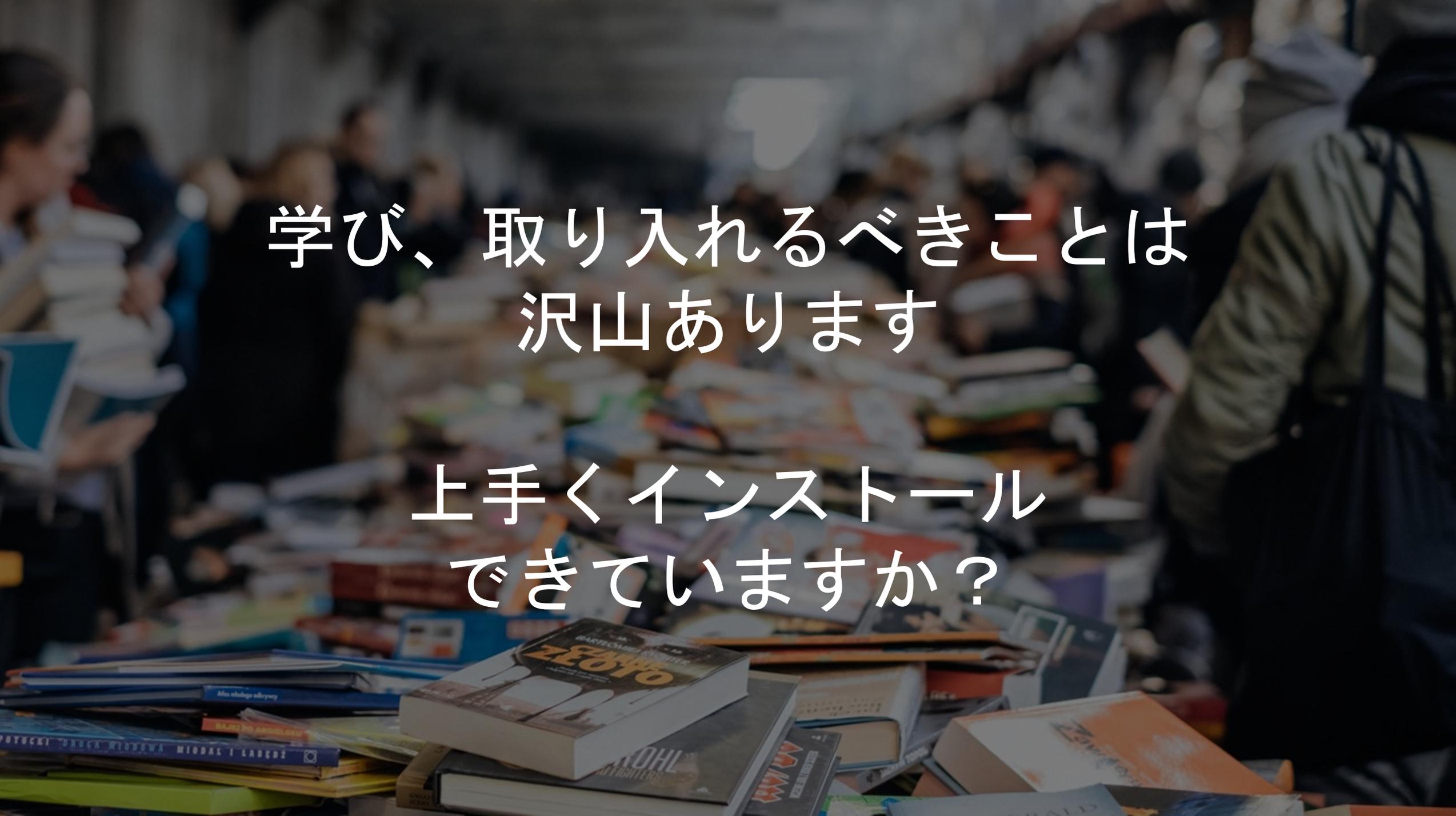
アジャイルテストの4象限

ビジネス面



製品を批評するテスト

技術面



学び、取り入れるべきことは
沢山あります

上手くインストール
できていますか？

Agenda

はじめに

チームカルチャー

テスト技術

開発サイクルとテスト

まとめ

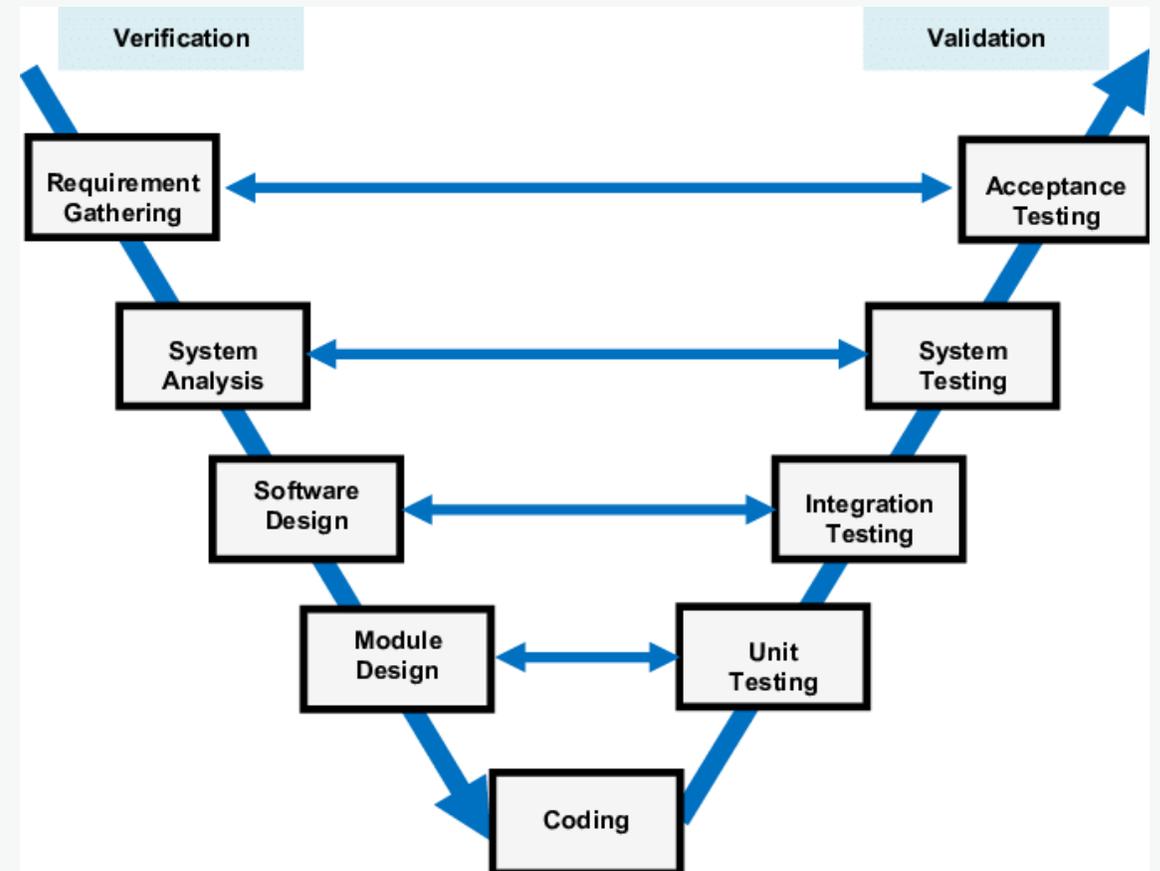


開発サイクルとテスト

テストプロセスについて

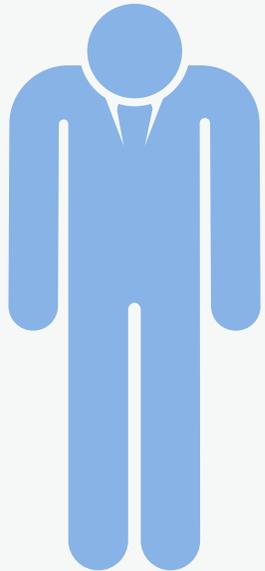
テストを勉強するとき、ウォーターフォールやVモデルなどからテストを学び始めたのではないのでしょうか

どんな開発プロセスから学習を出発したかで、その人の基礎となる部分は変わってきそうだがアジャイル開発にあわせてアップデートできているのでしょうか



想定シナリオ

アジャイル開発に変化する過程でウォーターフォールなどの開発プロセスで実施していたテストを用いた場合に何が想定されるか



負け筋

POINT 1

リリース毎にテスト成果物を作っては捨ててしまうような無駄が発生していていつになっても楽にならない。

POINT 2

従来のテストの型から抜け出せず、機能テストをしっかりとやることに労力を割かれていて、ユーザーに価値が届いているか評価しづらい



勝ち筋

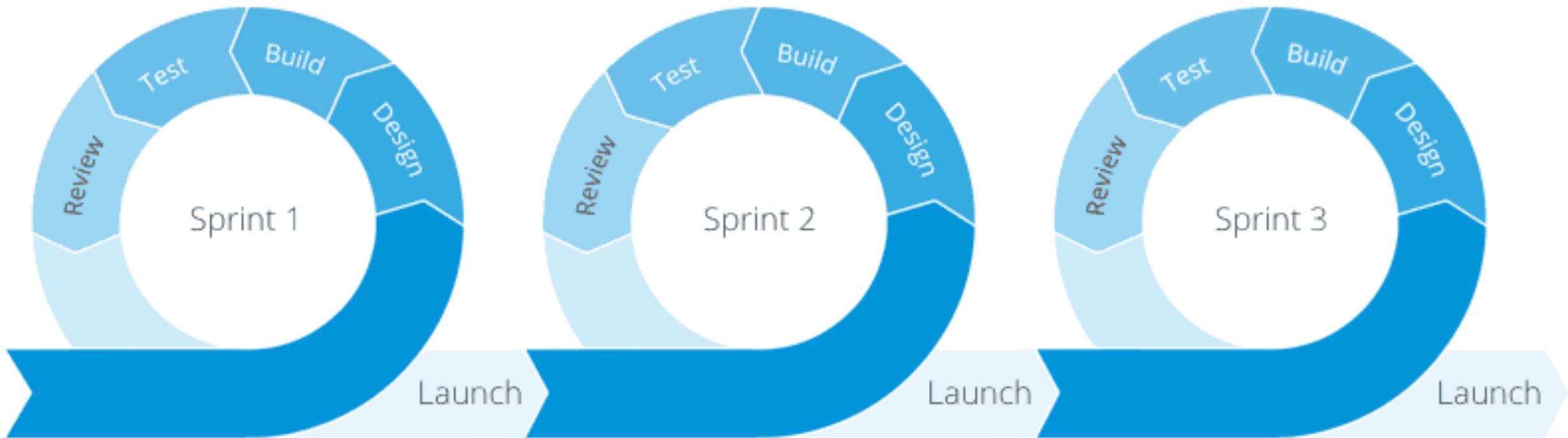
POINT 1

テスト成果物の利活用を前提にテストが計画されている。イテレーション毎にテストのナレッジや資産が積み上がっている状態が作れている

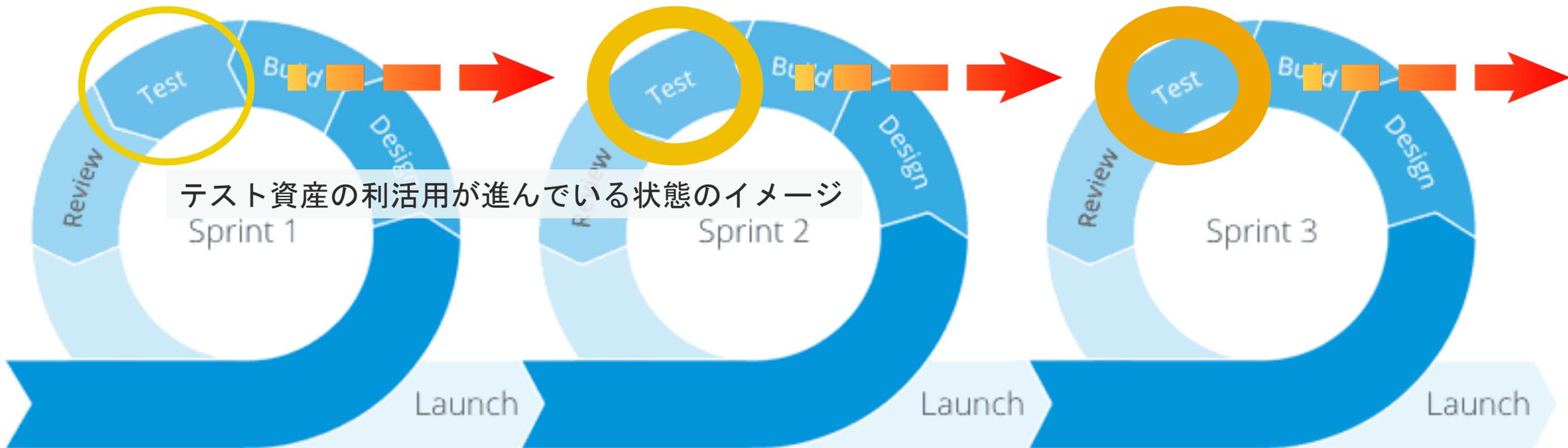
POINT 2

デリバリーしたいものの性質や価値にあわせてテストを柔軟に組み合わせている

イテレーション毎にテストの効率が良くなっていくために何を考えるべきか



イテレーション毎にテストの効率が良くなっていくために何を考えるべきか



イテレーションをまたいで
テスト資産の利活用を意識した
継続的なテストの強化が
必要不可欠

PUNCH
TODAY
IN THE
FACE.

まとめ



まとめ

- アジャイルにおいて、テストを最適化する過程には、チームが一体となってカイゼンを進めることが求められる
- テストの技術開発も不可欠、気概でなく、技術をチームに根付かせる思考や取り組みが必要
- テストの成果物の利活用の意識と、それを前提としたテストの戦略や構想、コンセプトが必要になる

Thank
you



with
love!

THANK YOU



@TestingGolem